

がん遺伝子パネル検査について

概要

- ・ 同じ臓器のがんに同じ治療を行っても、効果は患者さんによって差があります。これは、人それぞれの異なる遺伝子の変化が影響しています。
- ・ がん遺伝子パネル検査では、その一人ひとりのがん細胞に起こっている遺伝子の変化を調べます。
- ・ 検査を受けて治療可能な遺伝子の変化が見つかった場合、その変化に合わせた治療ができる可能性があります。
- ・ 一人ひとりのがんの原因となっている遺伝子の変化に合わせた治療薬を用いることで、高い治療効果や副作用の可能性を抑えられることが期待されています。



対象となる方（次の全てを満たす方）

- ・ 標準治療がない固形がん患者又は局所進行若しくは転移が認められ標準治療が終了もしくは終了見込みとなった固形がん患者
- ・ 検査施行後に化学療法の適応となる可能性が高いと主治医が判断した患者

検査を受けた場合のメリット

- ・ がん細胞で生じている遺伝子の変化に対して効果が期待できる治療薬の情報が得られる可能性があります。
- ・ 原発不明がんの場合、がんの発生臓器が判明すれば効果が期待できる治療薬の情報が得られる可能性があります。

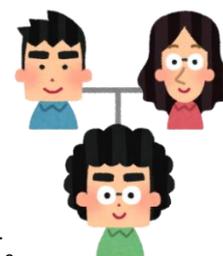


検査を受けた場合のデメリット

- ・ 検査をしても、全ての方で必ず遺伝子変異が見つかるわけではありません。また、遺伝子変異が見つかって、がんの治療や診断につながらない場合があります。
- ・ 検査の結果、治療効果が期待できる治療薬が見つかって、保険適応の対象外となる可能性があります。
- ・ 検査の結果に基づいた治療を受けても、十分な効果が得られない場合があります。
- ・ 現段階では、見つかった遺伝子変異の意味が分からない場合や、治療薬の候補が保険適応の対象外あるいは国内で未販売の場合など、新しい治療へ進められないことがあります。ただ、今後、遺伝子変異の意味づけが変更になったり、新たに承認される薬が出てきたりすることもあります。

検査を受ける際に考えていただきたいこと

- ・ 遺伝子の変化が、遺伝性のもので分かることがあります。
- ・ その場合、自分の子ども、将来生まれてくる子ども、きょうだいなど血縁者に影響することがあります。がんになりやすい体質と分かり、早めの対策を打つことができるメリットとも考えられます。
- ・ ご本人や血縁者に心理的・社会的な影響をもたらす可能性が考えられます。



検査の種類と費用について

- 検査の種類：FoundationOne CDx[®]（生検や手術で摘出した組織検体のみ）
OncoGuide[™] NCC オンコパネル（組織検体と血液）
- 健康保険が適応されます。また、高額療養費制度の対象となります。
- 3割負担の場合、検査費用として合計168,000円が発生します。
（初回受診時に24,000円、結果説明時に144,000円）

※検査費用は、検査結果が出なかった場合も返金できませんのでご承知ください。
※上記のほか自由診療（全額自己負担）で実施している検査もあります。

検査後の治療について

がん細胞に治療可能な遺伝子の変化が明らかとなった場合、治療効果が期待できる以下の治療薬の情報が得られます。

- ① 国内で承認済みの保険適用の治療薬
 - ② 国内で臨床試験（治験等）中の治療薬
 - ③ 治療しようとするがんに対しては承認されていない治療薬
 - ④ 海外で承認済みだが国内では未承認の治療薬
- ※③と④は自費診療となるため、治療費が高額になることが予想されます



検査の流れについて（結果説明まで約6～8週間かかることが予想されます。）

